

輸出事業計画

※申請者名：杉本製茶株式会社、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・1946年8月創業の茶製造業者（輸出事業が経営主体）
- ・1998年から米国へ向けての輸出事業を開始、2005年2月に米国に現地法人を設立し、米国・EUへ日本茶の輸出を開始。
- ・HACCPプランを組み込んだ国際基準FSSC22000、有機JAS認証、Kosherを取得済。
- ・FSSC22000は2024年4月1日からVer6.0での運用が開始され、移行期間は2025年3月31日となっている。
- ・米国では、日本の緑茶輸出量は増加傾向で、2022年の輸出量は2123t/年
- ・有機茶は米国・EUにおいてリーフ茶・粉末状の緑茶ともに需要が伸びている。
- ・近年、国内の茶単価は低下しており、業界全体として輸出向けや飲料用原料等の新たな需要に対応した供給体制への転換が必要。

【課題】

（生産・製造）

- ・有機栽培を行う茶農家は少なく、農業従事者の高齢化、生産技術の安定、有機栽培への転換に要する時間や労力が主な課題となり原料の調達が困難。

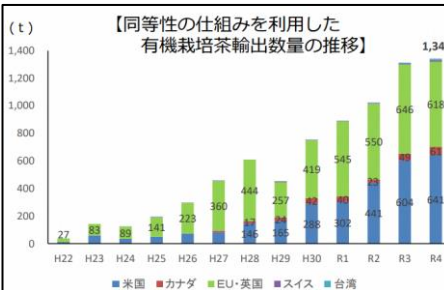
（加工）

- ・海外大手の食品販売業者へ販路を開拓するには、食品製造の安全管理体制を更に強化するため、2025年3月末までにFSSC22000Ver6.00へのバージョンアップに対応する必要がある。

【緑茶の輸出実績（米国向け）】



（農林水産省：茶をめぐる情勢）



（農林水産省：茶をめぐる情勢）

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・製造】

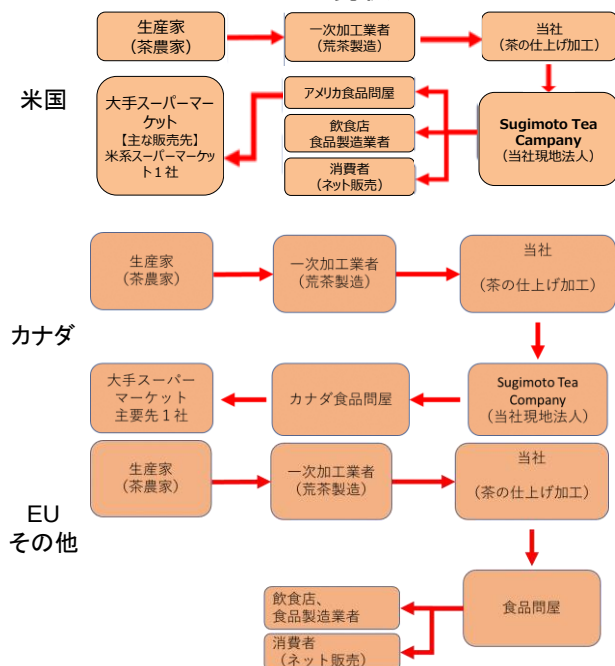
- ・当社へ材料供給を行っている経験豊富な有機栽培農家と共同で肥料配合等の研究を行い、得られた結果を有機栽培の経験が浅い茶農家へも共有することにより、有機栽培に転換する際のハードルを低下させるとともに、生産技術の向上を図る。

【加工】

- ・第1工場のベルトコンベア、廻り機、切断機の木質部材を金属探知機で検知できる素材に変更し、さらに金属探知機を導入することで異物混入等の食品安全上のリスクを低減する。

【商流】

現状

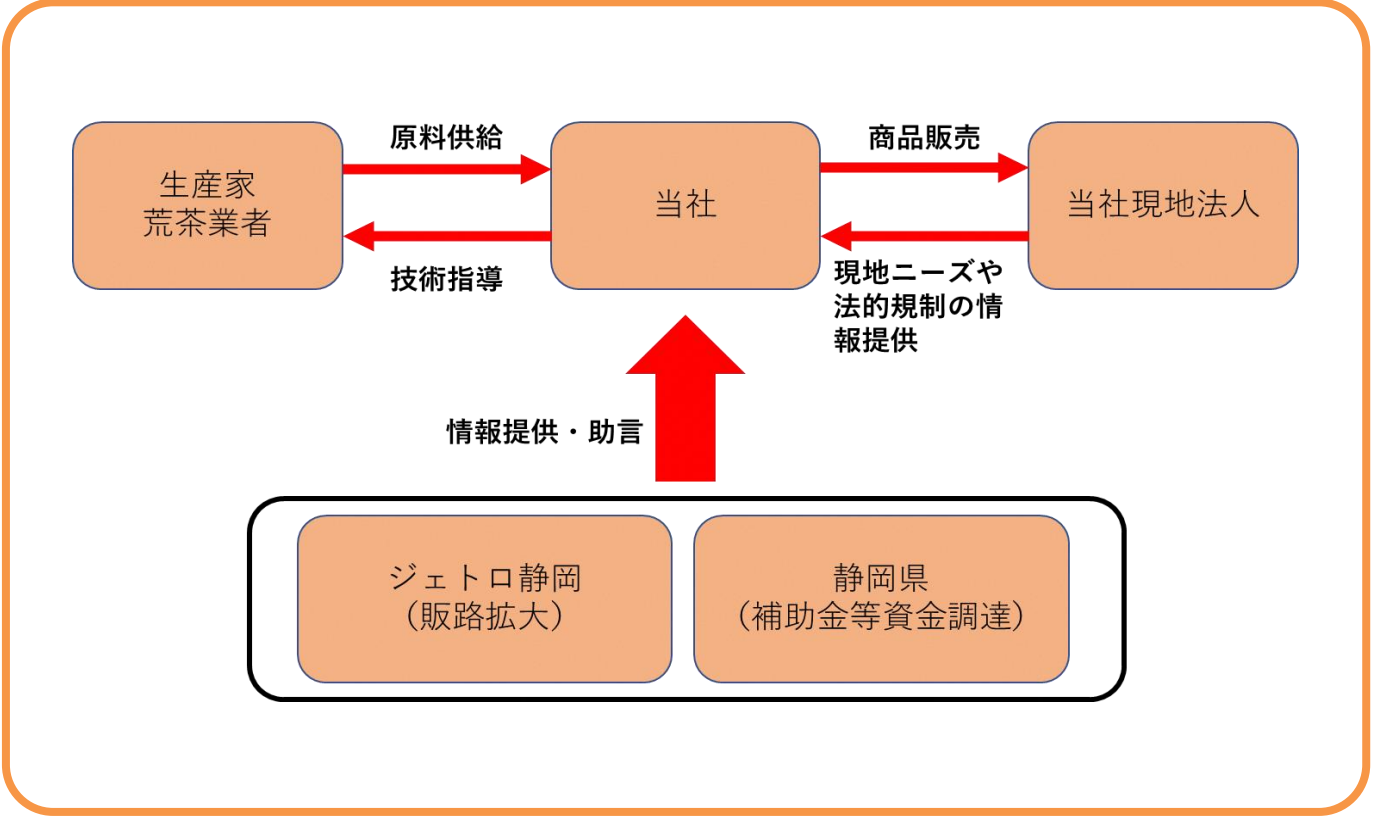


目標

本事業の取り組みにより、大手スーパーマーケットのニーズに対応し、取扱会社を1社増加させる。

アメリカでの実績により引き合いの増加を見込む。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

現状（令和6年）488,559千円から目標（令和10年）595,065千円に増加。

	現状（R 6 年）	目標（令和10年）
輸出額（千円）	488,559千円	595,065千円
輸出量（Kg）	153,000 kg	185,000 kg
輸出先国	アメリカ・カナダ・EU等	アメリカ・カナダ・EU等
生産量/取扱量（kg）	174,000 kg	202,000 kg